

―光明国青年部に告ぐ―

大和民族の生くべき道

公憤

五、一五事件の公判廷において陸海軍人の被告たちは、徹底的に支配階級、特権階級の腐敗墮落を叫んで、民族の上に大鉄槌を下した。それがひいて非常時日本の意識をはつきりさせ、非常時内閣まで生み出しました。しかしあまりにも度を越えた、腐敗墮落の重患は、なかなか根治出来そうにもなく、五、十五事件が一段落つくやつかぬ間に、世間には又幾多の醜い社会相が暴露されて来た。曰く博士売買事件、曰く教育界の不祥事、曰くエロ華族の処罰、等々何でもかでも金次第、賄賂などは取らぬが馬鹿と言った有様である。人間性の尊厳性は地を払い、ただ低級なる本能的、唯物主義的な空気が日本の全てに漲ろうとする世紀末的な現状を見て、寒心に堪えないものはただ私一人であろうか。

日本の現状を見て、寒心眉をひそめざるを得ない二面がある。

その一は、支配階級、特権階級の一部の腐敗墮落、もしくはあまりにも利己主義的なやり方である。その二は、今や華族の子弟にすら及ぶ所の、共産分子の続出である。

憂図の至情

世界非常時、日本非常時、国を挙げて、一致団結しなければならぬ時に、支配階級、特権階級、教育家、政治家、宗教家、等々、国家の中堅幹部なるべき者が、如何に生きねばならぬかは、あまりにわかりすぎた問題である。

しかるにかかる恵まれた、そして責任ある立場の者が、いよいよ利己的な、個我的な立場を守って、大衆と共に生き、民族と共に栄え、国家と共に進む覚悟を欠いで、あまりに墮落した無道義な相を暴露したのでは、それが国民にいかなる呪阻反感を起さしめるかは明かである。徳富蘇峰氏をして、天保水野の大改革を叫ばしめるもまた当然である。

日給一円で、朝早くから夜まで働き通さねばならない人たちの眼に、二百円三百円の月給で、ちよつと動くのにも出張旅費をとり、年末賞与があり、工事の監督に廻るにも自動車飛ばぶ……こうした、どんなにしても至り得られない人々の境遇が、貧しい人たちにどんなに映ずるかは、察するに難くはない。若し怪我でもすれば、それを救う道の開けていない現状では、日給一円で養われている家族はすぐ飢えなければならぬ。

こうした大衆が不平も言わないで非常時日本を背負って立ってくれている時、金と時間が余りすぎて、劇に、ゴルフにあぎ、麻雀に疲れ、ついに遊ぶことに欠いで、いかなる下層階級にもありえないような醜い享楽にふける華族などが出たのでは、この国民的憤然が、恐るべき爆発となつても致し方がないではないか。

今や、懐手で楽に食えることが自慢であった時代は去つた。単に社会的地位を得て、錦を故郷に飾ると言つたようなことはあまりに意味をなさない。代議士になつた

こと、それ自身を喜ぶと言つた意味の成功よりは、代議士になつて何をしたかが問題である。非常時日本は、遠慮なく真実ならざるものを葬つてゆく。

天皇の御名において

しかし如何に日本の上層が腐敗して来たからとて、日本を救う力は、日本の内部からしか生れない。平等郎差別、差別即平等、とは仏教が説く根本原理の一つである。平等が生きて差別が生きて、差別が生きて平等の理が輝く。悪平等がいけないのはもちろん、悪差別もまた取るべきではない。

社会の現状を心配するほどの者の、誰一人でもあまりにも差別の甚しい不平等な現在の社会状態を嫌悪しないものはない。しかしそれだからとて日本の特殊性と言うものを眼中におかない思想はいけない。日本は日本であつてロシアではない。米国でも伊大利でもない。差別日本の現状を嫌うのあまり、日本の伝統も歴史も国民性も眼中におかない平等思想は、決して人類の眞の指導原理ではない。我等の祖国は徹頭徹尾日本であつて、それ以外のいづれでもない。

天皇は日本の主体であつて、決して日本と分けて考えることは出来ない。もし日本が行詰つた時にはいかなる場合にも、必ず、天皇の御名において、変革さるべきである。

天皇は大和民族の道義の中心であり、民族の全体であり、その徳の象徴であり、その宗家である。民に一人の倦む者がいても、聖天子の宸襟を悩し奉る。この大御心を心として一切が進められてゆくべきである。いかなる理想も、思想も、この日本の特殊性の中にのみ融かざるべきである。

我等の使命

日本は今、大きな試練の中におかれてある。大きな使命の前に立つている。旧い日本が非常時と共に清算せられ、腐つた部分が急速度で倒れようとする時、新興日本の大地の底には、澁刺たる底力をもつて、真実そのものが動き出ようとしている。皇国日本は、日本それ自身にかえつて、日本を救おうとしている。

貧しい御身の不幸も聞きぬいた。悲しみも知りすぎた。だが単なる不平でも解決しない。自暴自棄でも解決しない。与えられた唯一の道は、

一、民族の全てがこの苦難を一身に荷負つて、新らしい真実なる国土建設の使命を自覚して生きることだ。

一、使命に生きる者は、時に命すら投げ出す。日本が汝自体であるならば、貧困をも忍べ、苦痛をも逃避すな。

一、自分の趣味や道楽のためには幾千金も惜まない。社会公共のためには、一円すら惜しい。文化が何だらうと、非常時が何であろうと、火事場盗賊式にでも金さへ得ればいゝと言うような無自覚を排撃しなければならない。

一、腐敗した社会相を凝視して、光明団々員は、如何に生くべきかを学べ。

一、青年よ立て。雄々しく大胆に。この千載一遇の昭和維新に生れ合せたることを喜べ。

一、いよく大乘無我的生活の波紋を社会的に拡大せよ。

日本を救うものは日本である。

日本を救うものは日本の青年である。

青年中の自覚者こそ、新らしき時代の先駆者である。しかして光明団青年部こそは、本団の前衛部隊である。

日本を亡ぼすあらゆる思想と闘え。偏狭固陋なる似而非日本主義を駆逐せよ。力の日本と共に、文化の国日本を育てよ。自らまず無我に生きて、やがて大乘菩薩道をあらゆる社会相に承認せしめよ。迷信邪教を克服せよ。もつて皇国日本の進展に貢献せよ。